

2. 指標設定

成果指標	指標名	郷土芸能の継承・発展コミュニティの場の確保	目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	—			本市が全国に誇れる歴史的価値が高い郷土芸能の継承・発展の支援、地域に元気・活力の向上を図るため、生涯教育、コミュニティの場の確保を目的として、建設されている			
活動指標	指標	a	伝統芸能公演回数	b		c		d
	数値	目標	12回	目標		目標		目標

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H20	H21	H22
郷土芸能の継承・発展コミュニティの場の確保		—	—	—

活動指標名	単位	H20	H21	H22
a	伝統芸能公演回数	回	9回	12回
			75.0%	100.0%
b				
c				
d				

4. 課題と対応

課題
開館して2年と歴史も浅く、経験値も知名度も低い施設である
対応（改善点等）
この数年間の活動や管理体制が今後の施設の性格や評価を決めると思われる。新しい歴史を作り上げていくという観点と視点に立って管理運営していく必要がある

5. 事業費・・・H20～H22（決算額）、H23（予算現額）

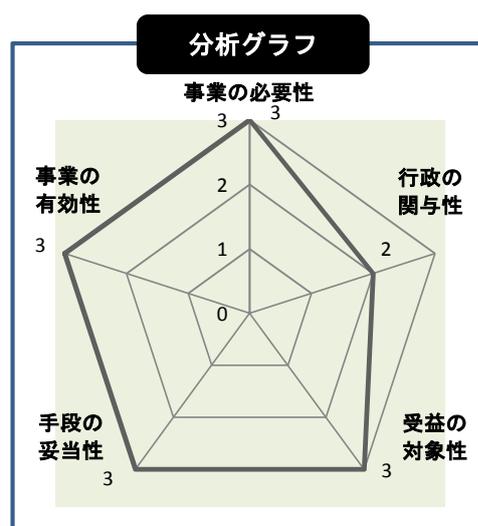
決算額（千円）		H20	H21	H22	H23
うち経常経費			18,412	13,896	14,092
			11,888	13,896	13,397
財源内訳	国費				
	県費				
	市債				
	その他		2,624	3,467	2,754
	一般財源		15,788	10,429	11,338
うち経常			9,264	10,429	10,823
事業費に係る人件費			5,120	5,256	5,160

6. H24年度予算の方向性

方向性
減額
理由
現在の事業推進のために必要であるが経費を見直し削減を図る

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 会館の建設理念である郷土芸能の保存・継承の支援、地域のコミュニティの場の確保のため必要である
② 行政の関与性	責任領域の精査	2 民間サービスは可能であるが当面は行政の関与が必要である
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 広く市民に享受できている
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 目的達成のために適切な手段である
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 期待した通りの成果が出ている



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	引き続き経営努力を行うとともに、公共施設の見直し方針に則り事業の推進を図ること（清川支所機能を神楽会館に移転）